ソメイヨシノは、種(たね)ができない？

【ソメイヨシノは、クローンの桜】

ソメイヨシノ【バラ科サクラ亜科サクラ属】

桜と言えば「ソメイヨシノ」ですが、この品種は江戸時代に染井(現在の豊島区駒込)にあった植木屋さんが、吉野桜という名称で売り出した栽培品種で、たった一本の原木から「接ぎ木」という当時の最先端の栽培技術を使って、大量生産されたもので、<u>すべての木が遺伝的に同じ</u>だそうです。つまり、日本中のソメイヨシノは、基本的に、すべてがクローンということになり、６００℃の法則が成り立つのも、すべてが同じ性質を持つからなのでしょう。

《<u>接ぎ木</u>》

親木のソメイヨシノから切った枝を台木（根がある別の桜の木）に繋ぎ合わせて育てる方法です。最初のうち、根の部分は、別の桜ですが、大きく育つうちに、木の幹からも根が成長し、十数年たつうちに、ほとんどが入れ替わってしまい、根の部分もソメイヨシノになるどうです。

【母は「エドヒガン」、父は「オオシマザクラ」】

原木は日本のどこにあったのか？　自然交配なのか人工交配なのか？　などは不明ですが、DNA 解析によると、５５２万年前に、異なる種に分かれた「**エドヒガン**」という種類の桜の**雌しべ**に、「**オオシマザクラ**」という種類の**花粉**（オオシマザクラとヤマザクラの雑種の花粉という説もある）」が受粉して、百数十年前に交雑して生まれたのが、ソメイヨシノだと推測されるそうです。

淡紅色で花が咲いた後に葉がでるエドヒガンの艶やかさと、大振りで先が割れた迫力ある５枚の花弁がオオシマザクラのそれぞれの性質が合わさって、美しく見ごたえのある品種になったそうです。

※「エドヒガン」の雌しべと、「オオシマザクラとヤマザクラの雑種」の花粉という説もあるそうです。
※日本の桜は１００種類くらいあるそうですが、野生種はオオシマザクラ、ヤマザクラ、オオヤマザクラ、エドヒガン、ミヤマザクラなど１０種類ほど（学者で見解が異なりますので確定ではありません）です。

【ソメイヨシノに「タネ」はできない？】 ⇒ できるけど、できない 。

花が終わった後に、果実を付けたソメイヨシノをあまり見かけません。
「タネはできないのでしょうか？」という問いの答えは、
「**タネはできるが、ソメイヨシノではなくなる。**」です。

桜の仲間は「**自家受粉（自分の雌しべと雄しべで受粉すること）では、タネができません。**」自分以外の別の花粉でないと受精が行われず、果実ができません。

接ぎ木で増やすソメイヨシノは、**すべてクローン**（同じ遺伝子）なので、隣に植えられたソメイヨシノから花粉をもらっても、自分の花粉と同じ遺伝子を持つ花粉なので、種子ができません。

違う種類の桜の花粉が受粉すると、果実ができることはありますが、できた種子は、別の種類の桜の遺伝子が組み込まれた交雑種で、ソメイヨシノではなくなっています。

野生種のヤマザクラなどは、個体により遺伝子が異なるので種子ができて、増えることができます。
ソメイヨシノの接ぎ木の台木として、種から育てたヤマザクラやオオシマザクラの苗木を利用するそうです。